

【R6.10.21】全校朝会（校長講話）

○2学期が始まり、移動教室、修学旅行、職場体験、合唱コンクールと駆け抜けてきました。芸術、運動、そして勉強と、充実の秋です。

○今日は5月の開校記念日以来の四中についてのお話です。この学校は今年度で…78年目、78歳です。昭和22年に開校し、第1回の卒業式は昭和24年度末に行われました。この時の卒業生である1期生は、現在90歳になるはずです。地域の先輩方が脈々とつないできた四中ですが、2年半後の令和9年度から義務教育学校として開校することから、令和8年度末にその歴史を閉じることになります。それはちょうど80年目に当たる年です。みんなは78、79、80という特別な最後の3年間でこの学校で過ごしているわけですから、四中最後の3年間の卒業生という意味で、かっこよく言うとなレジェンドであると言えます。

○先日、四中の古い資料や金庫の中身を確認していたら、「校譜」という10年ごとに作成している記念誌を発見しました。また、10周年から70周年までの記念式典の資料なども見つかりましたので読んでいました。その式典の資料の中から当時の生徒代表の話の原稿も出てきました。その中の四中の歴史のちょうど真ん中である40周年の代表生徒の言葉である大野久美子さんの原稿から、後輩であるみんなへのメッセージを紹介します。

…そんな時代の移り変わりを象徴しているのは、生徒会活動でしょう。昭和30年代前半まで生徒会という機関はなかったと聞きました。より民主的に、という時代の流れと共に、学校内でも生徒の自治の活動が取り入れられ、生徒会ができたのだと思います。現在、この生徒会は学校の大きな行事である体育祭や文化祭になくてはならない存在となり、活発に活動しています。私は、自分たちの学校行事を自分たちの手で行うということを素晴らしいことだと思っています。

…私は今、この第四中学校で個性豊かな友達にめぐり逢い、共に学んでいます。そして泣いたり笑ったりした毎日の中に自分というものを知り、少しだけ他人を理解することもできるようになりました。いつの時代の中学生も同じように友達のことを考え、悩み、傷つき、成長してきたのではないのでしょうか。

これから先の時代は、今の1、2年生と、それに続く下級生たちとが創り上げていくものです。私が望むことは、この中学生という貴重な三年間を十分に活用して、充実した日々を送ってほしいということです。自分の可能性を信じて、何事にもチャレンジできるのはこの時しかありません。

私たち三年生は、修学旅行の時、京都のお坊さんに次のようなお言葉をいただきました。

「今、頑張らなければ、あなたはいつ頑張るのですか」

中学校生活を大切に過ごすことが、第四中学校の素晴らしい伝統を築いてこられた、諸先輩方に対する感謝のしるしにもなるのです。これから創り上げられていくであろう、八王子市立第四中学校に期待したいと思います。

○改めて、過去からの延長線上に今があり、そして今の延長線上に未来がある。当たり前のことですが、私も大野さんと同じ「今を頑張ってつなげていく」この二度と戻らない限られた中学校生活を大切に過ごしてほしいと願っています。